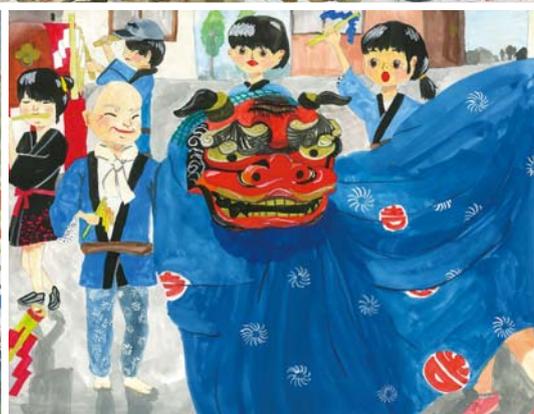
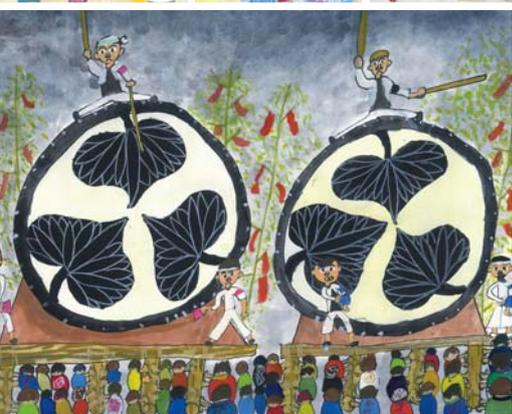


# 教育と文化

No.121

令和元年11月



## Contents

- 2 巻頭言
- 4 三河の文化を訪ねて
- 6 **特集** 研究助成団体の紹介
- 8 刊行物の活用紹介
- 9 教室の窓辺
- 10 郡市の特色ある教育活動
- 11 令和元年度個人研究助成
- 15 研究成果論文提出者の紹介
- 16 文振だより

## 令和元年度「みかわ彩発見絵画コンクール (春・夏の部)」最優秀作品受賞者

- 1年 田原・童浦小 藤城 映 (上段右)
- 2年 岡崎・梅園小 永見 晴 (下段左)
- 3年 豊田・駒場小 手寫 美緒 (上段左上)
- 4年 豊橋・東田小 大山 結加 (下段右)
- 5年 西尾・西尾小 中村 美華 (下段中)
- 6年 西尾・鶴城小 清水 かほ (上段左下)

# 子どもたちのために 何ができるのか



公益財団法人愛知教育文化振興会常務理事 犬塚 尊 夫

茶臼山高原へハイキングに行きました。  
コテージに荷物を置いて、休暇村登山ルートを  
のんびりと登りはじめました。ブナが原生する日  
陰の細い道を進みます。

赤紫色の小さな花をつけた山草に、ほっと一息。  
孫たちは大きな木から下がっている蔓にぶら下が  
り、大喜び。道端にヤマカガシを発見、恐る恐る  
すり抜けます。道を折り返すと、急な坂道になり、  
足元がすべって転倒。丸太にびっしり付いた苔の  
絨毯が目と和ませてくれます。

胸突き八丁を越えて、孫の待つ山頂にようやく  
到着。360度のパノラマで、山々を見渡しなが  
ら食したにぎり飯は格別でした。

## 子どもへの向き合い方

先日、附属特別支援学校の運動会を見る機会が  
ありました。音楽が流れるなか、手拍子に合わせ、  
子どもたちが元気いっぱい入場してきます。普段  
よりお客さんが多いせいか、子どもたちは、  
ちよつと興奮さみ。

以前、私が勤めていた中学校で、数学を担当し、  
生徒指導を受け持ち、部活も熱心に指導していた  
K先生が、自分より体の大きい子どもといっしょ  
に、「組み立て体操」の中にいました。

授業や部活でも、生徒自身に考えさせることを  
大事にしてきたK先生は、まわりとテンポが合わ  
ない子の横で、肩を組み、寄り添いながら次への  
動きを促しています。

笛の合図で隊形を変えますが、K先生は、一向



組み立て体操 なかま

に動こうとしない子どもを、その子と同じ格好で、  
ずっと待っています。「この子のできること」を  
見守り続けていました。

今日のようないつもと違う環境での子どもたち  
の動きは、予想すらできないことでありましょう。  
一人の子どもが「何ができるようになるか」と  
いう目標にむけて、先生方がひとりひとりの個性  
や能力をよくとらえ、とらえ続けているからこそ、  
適切な支援ができるのだと思います。

そして、日常生活のなかで、子どもとよく遊び、  
この子は「こんなことができるんだ」「これもで  
きるんだ」と、できることを細かく見ていくこと  
で、子どもをじっくり待つことができたり、夢中  
になってやれることを仕掛けられたりできるので  
はないかと思いました。

忘れてはならないものを、教えてもらいました。

## 実体験を通して、感性と情操を育てる

体験型事業「親子で楽しむネイチャーウォッチング」は、三河の自然にふれ、自然に関する知識や興味を深めるとともに、豊かな感性と情操を育み、人格の陶冶を図ることを目的に実施しています。本年度で3年目になります。応募者数も年々増加し、実施回数も年3回、5回、6回と増やしてきました。今年も、多くの応募者の中から35組の親子を抽選しました。

第3回の参加者からは、干潟の鳥や貝など、生き物を見つけた喜びや驚きの声がたくさん聞かれました。映像の世界ではなく、実体験からの感動が多く伝わってきます。

こうした事業が、これからも子どもたちの行動の広がりや好奇心をもつ「きっかけ」になればと願っています。



- 「ひがた」にありて、貝の多さにびっくり。ヤドカリが動くのでこわくてびっくり。でも楽しかったです。(子)
- はじめて5分くらいのカニをさわらせてうれしかったです。(子)

## 自らの思いを表出する

「みかわ彩発見絵画コンクール」が立ち上がり、2年目となります。三河地域の児童が、絵画による表現に関心を持ち、技能を向上させるとともに感性を陶冶する機会とするものです。



ぼくの大好きな柵鬼

「くらし」「まつり」「ふるさと」のテーマから応募いただき、昨年度は、春夏の部、秋冬の部を合わせて、約2500点と予想以上の参加がありました。

流れてくる「ソーめん」を箸でしっかりつかみ自慢げに食べている子、山車を力強く引っ張る子どもたち、夜空の花火を大きく目をあけて見上げる家族、負けじとかるたをにらんでいる子、迫力のある柵鬼など、生き生きとした様子が紙いっばいに描かれていました。子どもたちの豊かな表現力を感じます。

これからも、子どもたちの思いが自由に表出できる機会として、幅広く募集していけたらと思います。

## ICT教育の波がやってくる

今回の小学校版採択教科書では、QRコードから動画コンテンツを閲覧できるようになっているものが多くあります。サンプル動画を見ると、拡大図の書き方や方位磁針の使い方、米作りの農家の人の思いや抱負などを知ることができます。スマートフォンやタブレットがあれば、家庭でも見ることができ、一方通行ではありませんが、個に応じた学びを充実させることができます。

本法人は、来年度からQRコードを掲載し、ネイティブの声でリスニング問題が行える「英語の学習」を発刊します。また、ホームページを活用して刊行物の内容見本が閲覧できたり、「親と子の自然観察ガイド」では、虫の声を聴けたりと、少しずつ情報技術の活用を探っています。

これから様々な情報をいかに活用するかが求められるなかで、伝わりやすく、分かりやすい教材資料のデジタル化を研究していくことが不可欠と考えています。

インターネットで検索すれば、欲しいデータを即座に手に入れることができる昨今、これから次々と新しい道具（ツール）が登場し、ICT環境も変化し、人とデジタル機器のかかわりが、さらに濃密になっていくでしょう。

こうした時代だからこそ、情報技術の利便性を生かしながらも、人とかかわりや自然にふれあう体験、自らの足で得られる知識や思いに目を向けていきたいものです。

碧海台地で生きる人々の過去・現在・未来を見つめる

安祥文化のさと

## 安城市歴史博物館

安城市立安城西中学校長 松 永 博 司

日本史の黎明期において三河の中心であった安城  
明治用水開削以降の「日本デンマーク」としての発展は教育が礎となる  
先達が明らかにしてきたこの地域の歴史を、ここで振り返る



安城市歴史博物館 全景

安城市歴史博物館は、安城市域の歴史を伝える施設として、平成3年2月に開館した。立地として選ばれたのは、徳川家康の祖父である松平清康までの安城松平四代が50年間居城としていた安城城（安祥城）を含む安祥城址公園の一角である。安城市民ギャラリー・

安城市埋蔵文化財センターも隣接し、歴史調査・研究や芸術分野における市民の交流拠点でもある。公園と各施設、安祥公民館を含めたこの一帯は総称して「安祥文化のさと」と名付けられ、歴史と美術を気軽に楽しめる文化ゾーンとして、市民に親しまれている。

### 重要文化財「人面文壺形土器」

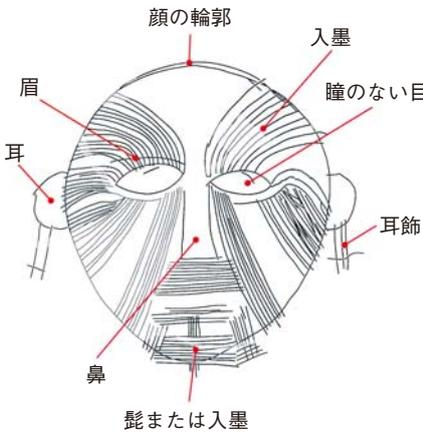
当博物館で注目すべきものは、「人面文壺形土器」（国指定重要文化財）である。昭和52年に亀塚遺跡（弥生時代終末期）で、火を使用した痕跡周辺から出土した。土器接合作業で人面文

明治用水開削は安城市発展の礎である。用水立案者の都築厚厚は40代に志を立て、夢を持ち続けた。明治用水会館「水のかんきょう学習館」に詳細な展示がされているほか、その姿は現在の本市の教育方針に記され、漫画化され市内小中学生にも配布された。

顔の輪郭、入墨、腫のない目、眉、耳、耳飾、鼻、髭または入墨



人面文壺形土器(上) と入墨のある人面(下)  
(安城市歴史博物館 蔵)



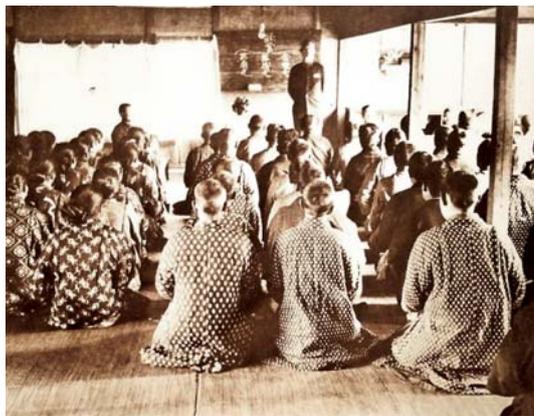
が描かれていることが判明し、腫のない目や入墨と思われる顔に書かれた模様が、「魏志倭人伝」にある「男子無大小皆黥面文身」（男性は皆、体や顔に入墨をしている）という記述と一致し、当時の風俗を明らかにする弥生時代の一級資料として全国的に報道された。出土地一帯は「鹿乗川流域遺跡群」と呼ばれる広大な遺跡群があり、県最大級の前方後方墳「二子古墳」（国指定史跡）等を含んだ矢作川流域最古級

しかし、その後「日本丁抹（デンマーク）」と称する農業先進地にまで高めたのは人々の不断の努力であることはあまり知られていない。やせた土地の改良に通水後も苦労した人々。しかし、鉄道敷設と安城駅の設置、愛知県立農林学校の開校や愛知県農事試験場本場の開場、初代校長山崎延吉の指

導や農事試験場岩槻信治等の研究から多くの人々が学び、活躍を始めたのである。

折しも世間は第一次世界大戦後の不況で、農村は特に苦しんでいた。識者は小国ながら敗戦から農業国家へ復活したデンマークに着目し、組合方式の確立や酪農・複合した農業への転換、教育の充実に着目した。安城では、こ

れまでの教育・研究が実を結び始め、板倉農場を代表とする、米麦作に養蚕や園芸、畜産等を行う多角形農業の展開や、碧海郡内各産業組合が結集した丸碧（碧海郡購買販売組合連合会）の鶏卵等の共同販売や肥料等の共同購入が進んだ。丸碧印の三河西瓜は鉄道で全国に運ばれて駅周辺は栄え、農村医療改善のための病院建設や、農民の読



山崎延吉初代校長の講話風景  
(安城市歴史博物館)

書振興を図る農業図書館の建設など、農業を超えた人や社会の在り方を体現できる農村づくりに取り組んだ。これが『農政研究』日本の丁抹号に取り上げられ、安城の名が日本に広まったのである。人々の不断の努力と、その根底の「教育」の存在があることを私たちは決して忘れてはいけない。

「『日本デンマーク』は一日にしてならず。」そう感じさせるのが、本館の「日本デンマーク」の展示である。

### 生涯にわたり

### 歴史に親しむ心を育てる

本館には本市ならではの博物館の活用や取り組みがあることも特徴である。一つ目は、学校への歴史教育振興である。文化振興課が主催する安城市小学校歴史賞作品展「歴史のひろば」では、郷土史研究に取り組む小中学生に光をあて、その成果を披露する場を設けている。このような、郷土史研究に特化した本展は、全国的にも珍しい。

「農政研究」日本の丁抹号 表紙  
大正15年5月発行



「農政研究」日本の丁抹号 表紙  
大正15年5月発行



江戸図屏風を用いた授業風景（安城市歴史博物館にて）

同様の取り組みとして、安城市小学校科学賞作品展「かがくのひろば」については、学校教育課が主催している。また、博物館主催で「夏休み自由研究相談会」を設け、学芸員が研究のアドバイスをすることで歴史への関心を高めている。このような取り組みも国立歴史民俗博物館等、全国で数例しかなく、注目を集めている。

さらに、小中学生の見学学習や出前授業を行うほか、学校の授業にも積極的に関わっている。過去には堀内貝塚出土人骨を用いた縄文時代の授業や、特別展で展示された江戸図屏風（国立

歴史民俗博物館所蔵）を用いた江戸時代の学習を展開するなど、博学連携体制が整えられている。

二つ目は生涯学習の視点からの歴史研究の振興である。本市は歴史研究市民団体が多く設立され、歴史博物館開館は待望の施設の開館であった。毎年開催される「安祥文化のさとまつり」では、各団体の取り組みが紹介され、精力的な活動が行われている。その活動支援にも多くの教員出身者がおり、歴史を通して地域を愛する姿にあふれている。

郷土を知ることで、郷土を愛し、未来志向の考えが生まれる。この姿勢を生み出す知的生産の文化的拠点として、今後も大いに活用していただきたい。



### 【安城市歴史博物館】

安城市安城町城堀30

TEL 0566-77-6655 月曜日休館

※現在耐震工事のため令和2年3月末日まで閉館。

(安城市民ギャラリーは開館)



# たちの 成長を願う



愛知県へき地教育研究協議会  
事務局次長 原田勝宏(田峯小長)

## 特集 研究助成団体の紹介

本法人は、三河の教育の充実・向上を図るために、小中学校の教育振興に寄与する教育研究団体に助成を行っている。

## 1 へき地教育の研究推進

本年度は、第8次研究を集約し、第9次研究への橋渡しの年である。第8次研究の主題は、「ふるさとで心豊かに学び、新しい時代を切り拓く子どもの育成」。この10月30日、11月1日に開催する「東海北陸地区へき地・複式・小規模学校教育研究大会愛知大会」で、岡崎市立宮崎小学校、豊田市立花山小学校、南知多町立日間賀小・中学校が研究発表を行う。第9次の研究主題は、「ふるさとに夢や誇りをもって、未来の創り手となる子どもの育成」。

### ● 複式学級の授業

算数科の授業では、教師の指導場面と子どもがすすめる自学場面とを学年ごとにずらして展開している。これを「ずらし」といっている。写真は、6年生3人のグループが自学をしており、5年生1人が黒板のところで教師の指導を受けているところである。この後、教師は5年生に課題を与え、6年生のグループのところに行って指導をする。これを「わたり」といっている。授業では、子どもの学びの状況を押し量りながら、タイミングよく「ずらし」と「わたり」をすることが求められる。

子どもたち自身で学習を進められるよう、課題解決場面の設定、リーダー学習やガイド学習などを取り入れたりして、だれもが主役となる指導過程の工夫が研究されている。



### 複式カリキュラムの編成

低・中・高学年別に、複式学級のために2学年分の学習内容を2年間で履修できるように編成しなおしたものの。北設楽郡統一など、地域単位で作成している。

### ● 異学年合同授業

少人数学級で多様な考え方に会わせるために、単式学級でも合同の授業を行うこともある。複数学年でも1つの普通教室に納まってしまうのが少人数の利点である。例えば、道徳科などでは、その効果も大きい。このことによって複数教師による指導が可能となり、教師同士の学び合いもできる。写真は、道徳の授業で、内側に5年生、外側に6年生を配置したものである。



異学年合同授業

### ● 集合学習(近隣小学校との合同授業など)

音楽の合唱や合奏、体育のチームゲームなど人数の必要な教科内容を経験させるため、近隣小学校との合同学習の機会をつくっている。この他に、臨海学習や修学旅行などを合同で行っている学校もある。自校での学習と合同での学習を効率的効果的に結びつける指導計画が蓄積されている。



集合学習・清嶺地区ラインサッカー

# へき地の子ども 健やかな

## 2 へき地教育の振興

1954年に制定された「へき地教育振興法」では、へき地学校を「交通条件及び自然的、経済的、文化的諸条件に恵まれない山間地、離島その他の地域に所在する公立の小学校及び中学校」としている。この定義を基点として、へき地の振興事業が考えられてきた。時代とともにへき地を取り巻く環境も変わってきている。地元にとどまる人が減るなかで、学校の統廃合・へき地級地の見直しなど厳しい現実がある。そんな状況にあってもわたしたちは、「小規模・少人数」「自然環境の豊かさ」「地域との密接な関係」を利点として生かし、教育活動がへき地にならないように努力している。この地で上質な教育を実現しようという心意気は常に変わることはない。

昭和27年に誕生した「愛知県単級複式教育研究会」を前身とし、昭和38年に、「愛知県へき地教育研究協議会」と現在の名称に改められた。本年度の会員数は、645名。会員校56校（協力校含む）である。これまで、地域に根差したへき地教育研究の深化と教育環境の整備・充実の2本柱で取り組んできた。

## ふるさと 出会いの創造

へき地学校及び準へき地学校が、小規模な小学校及び中学校において効果的な学習指導の実施と児童の連携及び社会性の醸成を図ったり、都市の生活体験をさせたり、郷土の伝統芸能や産業に関心を抱かせ、地域の一員として根付く後継者としての自覚を持たせたりすることによって、へき地学校の充実を図っている。

### ① 学びの場

- 英語、音楽、体育等の集合学習や合同学習
- 文化・芸術鑑賞・ICT活用学習
- 地域素材を生かした学習 ● 文化、芸術鑑賞



ビオトープ観察会

### ② 交流の場

- 都市部の児童生徒との交流 ● 地域の人々との交流
- へき地、小規模校の児童生徒との交流
- へき地間のネットワークづくり



盆踊り練習会

### ③ 体験の場

- 都市体験学習
- 自然保護活動
- 伝統文化の体験
- 伝統文化の保存、伝承
- 自然保護活動



都市体験学習

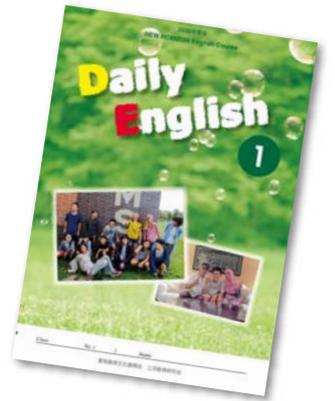


子ども歌舞伎

デイリーイングリッシュを活用した授業

自ら学び方を考えるきっかけに

みよし市立三好中学校教諭 酒向 浩司



授業と合わせて必要な技能の定着を目指す

本校では、「学び合い、学びを深める」ことを目指して実践を重ねている。ペアやグループでの学習を手立てとして、生徒が能動的に取り組み授業である。英語科でも、グループワークなどを積極的に用いることで、生徒が「英語を学ぶ」という意識から、「英語で（英語を活用して）学ぶ」への転換を図っている。

活動への参加が消極的な生徒の傾向として、「どうやって英語で言えばよいかわからない」、「文章が合っているか不安で言えない」という思いがある。しかし、小学校の外国語活動の充実に伴い、クラスルームイングリッシュへの対応力や、コミュニケーションを図ろうとする姿勢は身についてきている。中学生になり、それに加えて「正しい文法、単語を活用して英語を言える（書ける）ようになりたい」という思いも強くなっている。こういった、基礎となる語彙力や文章構成力はグループワークを充実するための重要なポイントである。そこで、「デイリーイングリッシュ」を活用することで、生徒が授業内で基本の確かめをしたり、家庭学習を充実させたりするようにし

ている。基礎・基本をきちんと定着させることができるように、授業と合わせた実践を行っている。

自ら学び方を考える

「デイリーイングリッシュ」は各「Unit」の基本文を基にして、「書くこと」に特化した構成となっている。具体的には、文法を用いた文章を繰り返し書き、次に単語の練習。その後、発音や並び替え。仕上げとして自分のことについて書く、である。基本から応用まで十分に活動できるのが特徴といえる。特に自分のことや自分の考えを書かせる問いを各所に設定することにより、生徒が自分で考えて文章を構成する力を伸ばすことができるようになってきている。授業でも教科書の例題を解いた後に活用することにより、充実した繰り返し練習を行うことができる。

さらに、英語が苦手な生徒にとっても無理なく取り組むことができる量になっており、1年間の取り組みの中でほとんどの生徒が1冊やり切るこゝとができていく。やり切ることで生徒は自信をもつ。しかし、その一方で繰り返し取り組みたい生徒にとっては、量が少なく感じることもあるようだった。



生徒自身が使い方を工夫して学習を重ねる様子が伝わってくる。

そこで、これまでの先輩の取り組みを記録しておき生徒に紹介している。サブノートを作り、2度、3度と繰り返し取り組む他に、ルーズリーフに解き直して貼り付けたり、付箋紙を利用して苦手の問題にマークをしたりして学びを蓄積する様子が挙げられる。このように、生徒自身が工夫をして取り組むことを推奨し、自分に合った学び方を自ら考え、実践する姿勢が身につけている。

授業と「デイリーイングリッシュ」を活用した学習を両輪として、英語科で求められている力を伸ばしていくことが重要であると考える、これからも生徒が主体的に取り組むことができる手立てを続けていく。そして生徒が自信をもってコミュニケーションをし、英語を楽しむことができる授業へとつなげていきたい。



# 教室の窓辺

つたえる つなげる つづける

刈谷市立朝日中学校

教諭 金丸 高久

登下校時、横に広がってしまう生徒が多いという問題点について、生徒会役員がどうしていくべきか考えていたときのことです。

「この問題ってさ、ここで話し合って決めたりとかアンケートをとったりするとかじゃなくて、全校で、皆で話し合うべきなんじゃない？」  
役員の一人がつぶやいたこの言葉から、全校討論会の企画は始まりました。

本校では、5年前から「全校討論会」に取り組んでいます。生徒会役員を中心に、生徒が企画や運営をします。

どのような全校討論会を目指すのか。毎回、役員とともに、私も知恵を絞ってきました。どのような議題にすれば皆は考えやすくなるのか。司会者は、どんな言葉を投げかけ、進めていったらよいか、挙手数や参加意識を高める方策など、何度も話し合いを重ね、検討しました。

第1回は、「登下校時のマナーについて考えよう」というテーマでした。はじめての全校討論会。全校で話し合うことに意味を感じてもらえるだろうか、意見を述べる生徒はいるだろうか、この段階になっても不安はありました。しかし、一人また一人と、自分の考えを語り始める生徒の姿に、私は胸が熱くなりました。きっと、役員も同じ気持ちだったに違いありません。

一人の生徒のつぶやきに賛同し、皆でその思いを膨らめ、がんばって話し合ってきたことが実を結びました。やりがいと可能性を感じました。

手探りで始めた全校討論会でしたが、回を重ねるにしたがって、事前に学級討論をしたり、学年討論に発展させたりする動きが始められました。全校をあげて、「討論会のレベルをあげていこう」という声があがるようになりました。

先日、近くの神社で次のような言葉が目に残りました。三つの『つ』を大切に、つたえる、つなげる、つづける、です。

全校討論会を通して、自分の考えを「つたえよう」という姿が広がり、学級、学年、そして学校の行動が、思いが、「つながる」ようになってきました。この営みを、レベルアップさせ「つづける」ことだと生徒に伝えます。そして、生徒の思いを形にできる教師を目指して、日々精進していきます。



全校討論会の様子

本校は、平成28年度に市教育委員会の指定を受け、研究発表会を開催しました。私は一人の参加者として、その折に公開された全校討論会を参観することができました。700名ほどの生徒が一堂に会し、真剣に討論する姿に感心させられたことを思い出します。縁をいただき、その翌年度、本校に赴任することになりました。

学期に3度行われる討論会は、生徒たちにとって、よりよい学校生活を創り上げようとする意識を高める機会となっております。今後、生徒自身が、気付き、考え、判断し、行動する力を更身に身につけてくれることを願うとともに、校訓「まごころ」を念頭に、常に丁寧な指導を心がけていくくださる先生方に感謝しています。

(校長 犬塚 清隆)

# 特色ある教育活動

―「郡市教育・研究助成」を生かした取り組み紹介―

## 深まる・広がる校内研究

豊根村立豊根小学校

教頭 村 井 正 照

北設楽では、教員の力量向上を目的とし、授業力をつけるために、郡内の教員が全員集まり研究校にて授業研究会を行っています。今回は、豊根小学校の研究について紹介します。

愛知県北東部にある山と川に囲まれた豊根小学校は、平成17年に三沢小学校、坂宇場小学校、旧豊根小学校が統合して誕生しました。平成28年には、富山小学校と統合し、村に1つの学校になりました。令和元年度は、新入生4名を迎え、全校児童31名でスタートしました。

### 深まる研究

本校では、昨年度まで、「仲間とともに問題を解決していく子どもの育成」対話を通して学びを深める算数科の授業づくり」を研究主題として、研究を進めてきました。研究にあたり、「子どもを中心に据えた教育」という理念を根底にして、「子どもの実態を把握すること」と「子どものよさを生かすこと」を大切にして算数科で実践を進

めてきました。

研究の成果として、子どもの振り返りの記録や日記には、算数が好き、仲間と話し合い、考えることが楽しい、難しい問題に挑戦してみたいなど、仲間とともに粘り強く学び合う姿が見られるようになりました。また、単元テストの得点が向上した、研究が楽しかったという教員の言葉には、研究を主体的に取り組んだ満足感がうかがえました。一方、課題として、昨年度末の学力テストでは、教員が期待するような結果は得られませんでした。その原因として、「定着に至るまでの十分な反復練習の不足」、「非認知能力に偏った振り返り」が挙げられました。

### 広がる研究

そこで本年度は、昨年度までの成果と課題を踏まえ、導入と振り返りの方法に修正を加え、子どもが学習内容を定着させていくことを願い、研究を積み重ねています。また、学校研究として算数科の授業づくりを中心として推進していくとともに、これまで研究で培ってきた対話を通じた学び合いを他教科にも広げていきたいと考えました。

第2学年「画工作科の1学期実践「どうぶつむらのピクニック」で児童は、あき箱や材料の特徴を生かして装饰材料を選んだり、使い方を工夫し

たりして、本物の動物に近づくように制作しました。この学習では、仲間の作品を鑑賞するキラリタイムを設け、仲間の作品のよさやアドバイスをもとに、自分のつくりたい動物の形にするにはどうしたらよいかを話し合いました。キラリタイム後には、自分になかったアイデアを取り入れ発想を広げ作品をつくる姿がありました。仲間との対話を通して完成した作品には、材料やその組み合わせの工夫が見られました。

### 成果は子どもたちの姿

2学期始業式に、制作活動に自信がなかった子どもが、2学期頑張りたいたいこととして「いろいろな物をすぐにつくれるようになりたい」と、全校の前で発表しました。研究成果が子どもたちの姿に表れてきています。



本物らしくするために、たてがみをひもにしたよ

# 令和元年度 個人研究助成

本法人では、先生方の研究を支援しています。本年度は、1年次研究、2年次研究、3年次研究を以下の先生方に助成しました。3年次研究を終わられて、研究成果論文を提出された方については、最終審査会を経て、来年2月に優秀論文の表彰式を行います。



## <1年次> (220名)

研究領域	郡 市	学校名	氏 名	研究領域	郡 市	学校名	氏 名
国語	岡崎	男川小	高木 千夏	社会	蒲郡	塩津小	若林 和也
	岡崎	矢作南小	市川 萌		蒲郡	塩津小	牧原 佳希
	岡崎	六ツ美西部小	中野 良彦		蒲郡	竹島小	今西 良伸
	岡崎	宮崎小	鈴木 美沙		田原	六連小	中村 慎吾
	碧南	棚尾小	磯貝 咲季		北設楽	東栄小	平松 一毅
	碧南	棚尾小	石川 陽也		岡崎	葵中	勝本 卓也
	豊田	根川小	光山 寛人		岡崎	河合中	辻村 堅吾
	豊田	九久平小	米田 里美		碧南	新川中	稲垣 典子
	豊田	御作小	松木 優人		刈谷	刈谷東中	杉本 尚史
	豊田	中山小	油井 徳子		豊田	石野中	日高 太地
	安城	錦町小	持田 紗季		西尾	西尾中	嶋崎 圭
	安城	新田小	杉山 智紀		西尾	平坂中	近藤 憲秀
	西尾	福地南部小	前田 英里		西尾	吉良中	西岡 佑依
	西尾	室場小	高須 多希		みよし	三好丘中	長田 千絵
	西尾	一色西部小	中濱 初美		蒲郡	蒲郡中	富樫 優太
	西尾	一色西部小	豊川 遥菜		田原	田原中	福井 啓介
	西尾	一色南部小	首藤 真里		岡崎	梅園小	江口 圭介
	知立	知立小	来川 知裕		岡崎	根石小	門脇 彩織
	幸田	坂崎小	山本 有香		岡崎	美合小	見市 達俊
	豊川	八南小	藤川 紗良		岡崎	井田小	岡田 淳也
	蒲郡	蒲郡南部小	山内 一平	岡崎	矢作南小	石川 壮	
	蒲郡	蒲郡北部小	藤田理映子	碧南	大浜小	岩田 大地	
	蒲郡	塩津小	水島 礼奈	豊田	童子山小	佃 匠悟	
	蒲郡	形原北小	久保亜沙美	豊田	童子山小	鶴田 祥子	
	新城	千郷小	井上美和子	豊田	則定小	佐藤 三恵	
	新城	東郷西小	阿部田拓也	安城	高棚小	竹田 雄飛	
	田原	神戸小	大羽 洋平	高浜	高取小	大橋亜由美	
	田原	衣笠小	鈴木 晃代	みよし	三吉小	大久保武彦	
	北設楽	田口小	後藤 まゆ	豊橋	二川南小	大竹 友浩	
	北設楽	豊根小	小川 華歩	豊川	中部小	今川 由衣	
	岡崎	葵中	次井 祥太	豊川	中部小	神谷 優奈	
	岡崎	額田中	三井 靖子	豊川	八南小	山本 大智	
	刈谷	雁が音中	栗本 拓哉	新城	新城小	黒田 勝大	
	豊田	崇化館中	日比野友紀	新城	千郷小	元田由香子	
	豊田	足助中	杉本 真希	北設楽	名倉小	鈴木 良幸	
	安城	桜井中	鈴木 祥恵	岡崎	六ツ美中	山口 隆寛	
	高浜	南中	工藤 諒也	豊田	崇化館中	白井 翔	
	幸田	南部中	永田 光輝	安城	安城北中	岡戸 聡志	
	社会	岡崎	小豆坂小	矢澤 舞	西尾	西尾中	森岡 優樹
		碧南	大浜小	薬師寺清楓	豊橋	青陵中	長坂 晃裕
		刈谷	亀城小	三浦 悠	蒲郡	蒲郡中	保浦 哲晴
		刈谷	かりがね小	加藤 由樹	北設楽	東栄中	井上 悟志
刈谷		富士松南小	梅村 大輔	岡崎	井田小	福田 琴	
豊田		則定小	川合 史章	岡崎	大樹寺小	渡邊 智文	
西尾		福地南部小	伊藤 真帆	碧南	大浜小	藤井 達也	

研究領域	郡 市	学校名	氏 名	
理科	刈谷	富士松南小	平澤 学	
	豊田	飯野小	埜田 貴博	
	新城	東陽小	鈴木美穂子	
	岡崎	甲山中	吉井 裕規	
	岡崎	矢作中	竹田 将太	
	岡崎	矢作北中	宮森 駿	
	岡崎	矢作北中	武藤 憲	
	豊田	崇化館中	佐々木 光	
	豊田	朝日丘中	坂本 晃伸	
	豊田	猿投台中	福岡 謙次	
	豊田	竜神中	河津 裕哉	
	西尾	吉良中	萩野谷大貴	
	音楽	刈谷	富士松南小	杉本 有希
安城		祥南小	石黒 雅代	
安城		桜林小	伊吹 拓実	
高浜		吉浜小	杉山小裕美	
蒲郡		蒲郡南部小	吉見佳奈子	
蒲郡		竹島小	吉岡 未咲	
岡崎		矢作北中	長谷川千草	
図画工作	幸田	幸田中	小野 真穂	
	岡崎	美合小	三浦 智帆	
	豊田	伊保小	早川愛理沙	
美術	幸田	幸田小	大岩 宣貴	
	刈谷	雁が音中	高橋 美咲	
	豊田	若園中	外山 奈美	
	安城	安城北中	八田みあき	
家庭	幸田	北部中	井上佳住美	
	刈谷	朝日小	渡邊 三季	
技術・家庭	岡崎	甲山中	河澄 崇	
	岡崎	矢作北中	久田 賢作	
	安城	安城北中	天野 清国	
	西尾	東部中	木下 晃輔	
	高浜	高浜中	林 朋樹	
	幸田	北部中	菊地 綾子	
体育	岡崎	梅園小	野村 隼斗	
	岡崎	竜美丘小	加藤 雅也	
	岡崎	城南小	松崎 俊介	
	刈谷	富士松南小	岩月 政拓	
	豊田	童子山小	繁竹 洋輔	
	豊田	滝脇小	湊谷 亮太	
	豊田	中山小	二村 文康	
	豊田	中山小	秋久 真哉	
	西尾	福地南部小	石川 絢加	
	西尾	室場小	中根 嘉彦	
	高浜	港小	竹内 直人	
	幸田	荻谷小	高橋万里奈	
	豊橋	二川南小	荻野 岳大	
	新城	八名小	請井 大輝	
	田原	泉小	石川 雄一	
	北設楽	田口小	大谷 啓介	
	保健体育	岡崎	矢作中	内田 貴博
		岡崎	矢作北中	富田 範和
		岡崎	矢作北中	橋本晋一郎

研究領域	郡 市	学校名	氏 名	
保健体育	岡崎	矢作北中	青木 佑史	
	岡崎	竜南中	松本 良太	
	岡崎	翔南中	井土民記臣	
	豊田	若園中	稲葉 浩志	
	安城	安城南中	石原 仁	
	西尾	福地中	天野 和真	
	知立	知立中	粟津 慎一	
	蒲郡	蒲郡中	千賀 拓也	
	外国語活動	岡崎	梅園小	神谷 美華
		豊田	伊保小	小罐 あや
安城		安城西部小	山本あゆみ	
豊橋		牟呂小	石黒 都	
外国語	岡崎	葵中	松本 唯	
	岡崎	矢作北中	渡邊 康平	
	刈谷	刈谷東中	神谷 健人	
	豊田	上郷中	大門 広幸	
	豊田	小原中	水谷 陽子	
	安城	安城南中	長井ひらり	
	安城	安祥中	倉田 杏奈	
	蒲郡	蒲郡中	平野可奈子	
	北設楽	豊根中	古月 大輝	
	生活	刈谷	東刈谷小	橋本 幹子
安城		安城西部小	吉満 優香	
安城		明和小	小山 尚哉	
安城		作野小	鏑本 詩織	
安城		三河安城小	若杉 拓実	
西尾		米津小	井添 浩司	
西尾		一色中部小	颯田 知央	
みよし		北部小	荒井万友美	
幸田		豊坂小	清水 紀晴	
豊橋		新川小	彦坂 有香	
道徳	蒲郡	塩津小	鳥居 真和	
	岡崎	竜美丘小	酒井 陽菜	
	岡崎	井田小	古崎真帆里	
	碧南	大浜小	中根明日菜	
	碧南	大浜小	奥谷 俊彦	
	碧南	日進小	永田めぐみ	
	安城	安城南小	杉澤知衣子	
	西尾	横須賀小	宮崎 滉太	
	知立	知立小	竹田 香織	
	高浜	翼小	神谷 昂	
学校保健	豊橋	二川小	水流 卓哉	
	蒲郡	蒲郡北部小	倉橋 亜弓	
	岡崎	額田中	田中友二郎	
	豊田	足助中	澤田 有希	
	岡崎	宮崎小	金本 美奈	
	安城	明和小	加藤 佑果	
	安城	祥南小	小松 千恵	
	西尾	一色中部小	橋本由美子	
	みよし	北部小	中島 麻莉	
	幸田	中央小	森田 早紀	
特別支援教育	碧南	大浜小	村田 有紀	
	豊田	敷島小	伊藤 哲朗	

研究領域	郡 市	学校名	氏 名
特別支援教育	安城	二本木小	神谷 真一
	幸田	深溝小	山本 治加
	蒲郡	西浦小	浦野 柚季
	新城	千郷小	今泉 直己
総合的な学習	豊田	足助小	清水 洸希
	安城	安城北部小	水野 敬太
	西尾	一色中部小	鈴木 光太
	西尾	一色西部小	野中 朋恵
	高浜	港小	平澤 愛美
	蒲郡	西浦小	浅野 晃範
	田原	田原中部小	菰田 操
情報教育	岡崎	羽根小	手嶋 夕菜

研究領域	郡 市	学校名	氏 名
情報教育	岡崎	矢作中	長谷川 誉幸
	岡崎	竜南中	中山美奈子
特別活動	岡崎	井田小	星野 楓
	豊田	道慈小	鈴木 詩織
	安城	安城西部小	足立 昌洋
	安城	里町小	福田 公仁
	みよし	北部小	稗田 美幸
	岡崎	葵中	矢沢 敬介
その他	豊田	萩野小	近藤 翔平
	安城	作野小	鈴木麻奈美
	安城	祥南小	齋藤 綾子
	豊田	若園中	鶴居早葵子

## ● 1年次申請者に向けて ●

審査委員会副委員長

### 1 1年次申請書を読んで

本年度の個人研究助成の1年次申請は、275名の応募があり、その中から220名を助成対象者として選考しました。自らの力量向上のために、研究実践に取り組もうとする先生方の熱意に敬意を表します。とりわけ、経験の浅い、若い先生方が多く応募されたことは、これからの三河の教育を担う人材として頼もしく感じました。

実践しようとする内容は、子どもたちが興味関心を高め、意欲的に学習に取り組むであろうと想像できるものや、手立てに工夫や斬新なアイデアが見られるものが多くあり、成果が楽しみです。また、新学習指導要領の理念の具現化をめざす取り組みも多く見られ、今後の実践研究の発展が期待されます。一方、めざす子ども像や仮説と手立てが明確になっていなかったり、整合性が見られなかったりするものもあ

り、研究の価値と成果を高めるために、はじめに研究の柱立てを考えることの大切さを感じました。

### 2 2年次申請に向けての実践の進め方

2年次申請に向けて、先に述べた改善点に加え、次の2点に留意してください。

- 1年次の実践研究の仮説の検証及び手立ての有効性をしっかりと考察し、研究成果と課題を明らかにしてください。その基盤に立って2年次の研究構想が始まります。
- 検証・考察に用いる資料の収集と分析の仕方を磨いてください。豊富で適切な資料と科学的な分析が実践の説得力となり、優秀な研究へとつながっていきます。



## <2年次> (50名)

研究領域	郡 市	学校名	氏 名	研 究 主 題
国語	岡崎	梅園小	川口 真生	本文から人物の様子や気持ちを想像して、表現をする子どもの育成
	碧南	大浜小	五十嵐久恵	物語のよさを味わいながら読み、自分の思いや考えを深め、いきいきと表現できる児童の育成
	刈谷	朝日小	渡部 早紀	自分の考えを仲間読みで交流し、読みを深めていく子どもの育成
	安城	桜林小	石川 美佳	友達と考えを聴き合い、自分の考えを深めようとする子をめざして
	みよし	天王小	祖父江寿人	自ら問題を見出し、仲間と共に問題を解決しようとする子を目指して
	蒲郡	蒲郡北部小	鈴木 基子	表現に着目して人物の心情をとらえ、読みを深めることができる子の育成
	新城	千郷中	今泉 匡博	文学教材を通して主体的・対話的に学び合う生徒の育成
社会	安城	二本木小	永守 沙織	身近な事象に目を向け、友達とかわりながら、主体的に問題解決しようとする子どもの育成
	知立	来迎寺小	中熊 洋介	自らの考えを広げたり深めたりして、よりよい社会をめざして参画できる子の育成
	豊田	朝日丘中	坂本 貴亮	社会的事象に関わる自己を意識し、社会参画しようとする生徒の育成
	西尾	西尾中	真鍋 智嗣	学びの実社会への有用性を考える生徒の育成
算数	刈谷	東刈谷小	神谷 貴公	自分の考えを整理し、工夫して伝える児童の育成
	豊田	広川台小	谷中あき子	互いを認め合い、かわり合いながら学びを深め、生き生きと活動する子ども
	安城	丈山小	都築 舞衣	互いの考えを聴き合い、自分の考えに自信をもてる子の育成
	幸田	中央小	村田和歌子	課題に対して、進んで取り組み、仲間と共に学び合おうとする子を目指して
数学	岡崎	矢作北中	大石 拓也	数学的な対話をする中で、学びを深め、数学を学ぶ楽しさを実感する生徒の育成
	田原	東部中	都築功二郎	主体的・協働的な活動を通して数学的に事象を捉え、考えを深めることができる生徒の育成

研究領域	郡 市	学校名	氏 名	研 究 主 題
理科	豊田	五ヶ丘東小	永田 翔一	問題意識を持続しながら主体的に活動し、考えを深め合える子どもの育成
	安城	錦町小	寺窪 佑騎	主体的に課題追究する中で、科学的な見方や考え方を身につける児童の育成
	幸田	荻谷小	犬塚 創太	身近な素材をもとに「主体的・対話的で深い学び」を実現できる子の育成
	刈谷	雁が音中	青木 将司	身近な事象に対して自らの考えを持ち、意見交流を通して、新たな見方や考え方を生み出す生徒の育成
	蒲郡	形原中	西澤 智	かかわり合いを通して主体的に追究する生徒の育成
技術・家庭	西尾	西尾中	鶴飼 礼美	生活の中のグッドデザインを追い求める授業づくり
	蒲郡	蒲郡中	小林 宏伸	学びや経験をいかし、生活を豊かにする生徒の育成
体育	岡崎	大樹寺小	大西 純平	運動の心得を守って運動に親しみ、友達と関わりながら自己の課題を達成しようとする子の育成
	豊田	寺部小	後藤 啓太	仲間との意見の伝え合いを通して技能を高め、「できるようになること」の喜びを味わう体育学習を目指して
	新城	八名小	天野 征哉	意欲的に運動に取り組む八名っ子の姿を目指して
	田原	伊良湖岬小	糟谷 賢太	自ら課題を見つけ、主体的に解決しようとする児童の育成
保健体育	豊川	代田中	小島 成稔	課題に気づき、解決に向けて考えながら主体的に活動する体育学習の実践
外国語活動	豊田	高嶺小	今泉 優	相手意識をもち、友達とかかわりながら積極的に外国語を話そうとする子の育成
	新城	作手小	武井 智美	「話したい、聞きたい、読みたい、書きたい！英語大好き！」な子の育成
外国語	豊田	竜神中	西野 優太	ICT機器を通して外国人との会話を楽しみ、自ら英語を学ぼうとする生徒の育成
生活	岡崎	美合小	蜂須賀一輝	学びに向かう力をつける子どもの育成を目指して
	安城	安城北部小	永塚 朋美	他者との関わりを通して主体的に問題解決できる児童の育成
	みよし	三好丘小	塚本 梨香	目的をもって追究し、友達と関わりながら学ぶ子どもの育成
	蒲郡	蒲郡南部小	原田 麻帆	人とかかわりを通して、自ら追究し続ける子の育成
道徳	豊田	青木小	川合 恭子	自己を見つめ、よりよい生き方を考える子の育成
	豊田	大沼小	林 愛弓	多彩な考え方に触れ、価値観を認め、受け入れられる子どもを育成する道徳の授業
	安城	桜町小	中山 えみ	互いのよさを認め合い、向上しようとする児童の育成
	豊川	中部小	白岩 和樹	物事を広い視野で考え、主体的な判断の下に行動し、よりよい生き方を追求できる子の育成
	蒲郡	塩津中	安藤 涼二	多様な考えに刺激を受け、自分の考えを深める生徒の育成
学校保健	豊田	松平中	深田 暖生	自分の生活を見直し、健康な生活を送ることができる子の育成
特別支援教育	西尾	一色南部小	中根十志恵	言葉や文字に興味を持ち、自分から聞いたり話したり伝えたりしようとする児童の育成
	岡崎	葵中	古家茂枝子	自らの思いを相手に伝え、協働学習を通して自らの考えを深める生徒の育成
総合的な学習	安城	明和小	八瀬尾麻美	探究的に学び、地域の一員としての自覚をもつ子の育成
	豊橋	花田小	村上 真章	地域の大人の姿を学び 自分の未来像を本気で考える子どもの育成
	幸田	南部中	若旅理紗子	自己の考えを高め、社会に役立つ生き方を追究できる生徒の育成
特別活動	碧南	日進小	重松 利有	児童の豊かな人間関係の育成をめざして
	豊川	中部小	辻 拓也	他者とかかわりながら学びを深める子どもの育成
その他	岡崎	福岡中	成瀬 拓磨	不登校児童生徒の自立を目指した支援の在り方と学校復帰に向けた取組の有効的手段の探究

## ● 2年次申請者に向けて ●

審査委員会副委員長

### 1 2年次申請書を読んで

本年度の個人研究2年次の助成対象者は50名としました。1年次と比べるとかなり狭い門となります。助成が決まった実践計画には、子どもたちがわくわくするようなダイナミックな単元が構想されていたり、興味関心を喚起して問題解決的な学習が展開されたりする計画が綴られています。また、1年次の研究成果と課題からめざす子ども像を設定し、研究の仮説と手立てが論理的に構想されています。わかりやすく、理路整然とまとめられた計画からは、本人の努力とともに学校の支援体制も伝わってきました。

一方、1年目の実践研究では優れた成果を上げながらも、教師の思いが先行して、子どもの実態に沿わない教師主導の学習過程であったり、手立てや単元構想に独自性や子どもを魅了する工夫に乏しい計画もあり、物足りなさを感じ

る点もありました。2年目の研究として求められるレベルを意識して研究構想をしていくとよいと感じました。

### 2 3年次申請に向けての実践の進め方

本年度の3年次の助成対象者は10名で、一層狭き門となります。3年次申請に向けて、次の2点に留意していただき、一層優れた「研究」となることを期待いたします。

○研究実践を積み上げながら、独自でありながらも汎用性のある理論や手立てを意識してください。また、「深い学び」を具現化した子どもの姿を追究してください。

○過去の実践や文献を参考にするとともに、先達（先輩や助言者）の指導を加え、自らの視野に「広がり」を、実践研究に「深み」を加えてください。

## 〈3年次〉(10名)

研究領域	郡 市	学校名	氏 名	研 究 主 題
国語	岡崎	矢作北小	深谷 昌弘	仲間と主体的、対話的に深く学び合い、楽しく説明文を読み取る学習
	みよし	天王小	佐藤 京子	自分の考えを深め、相手に思いを届けることのできる子を目指して
	北設	名倉小	金田千賀子	文章と向き合い、内容を読み取ろうとする子どもの育成
社会	豊橋	多米小	太田 篤行	日本の未来を考えながら共生の必要性について気づくことができる子どもの育成
算数	岡崎	梅園小	井畑絵美梨	算数的活動を通して考える力を育てる授業
	安城	丈山小	石川 昂季	互いの考えを聴き合い、共に学び合う子の育成
	西尾	花ノ木小	稲垣 千秋	作図活動を通じ、友達と関わりながら学び合いを深めることが出来る子をめざして
	蒲郡	蒲郡南部小	杉本 芳依	自ら追究し続ける子の育成
特別支援教育	安城	安城東部小	熊倉 三恵	人との関わりを楽しみながら、主体的に活動する児童の育成
総合的な学習	岡崎	竜海中	武井 翔	主体的に探究し、グローバルな視野をもって、共に学びを深め合う生徒の育成

Research result report

## 研究成果論文提出者の紹介 (平成28～30年度の研究)

平成28年度を研究1年次として、平成30年度までの3年間、着実に研究を推進され、成果を見事に論文として提出された10名の先生方を紹介します。

### 国 語



新城・千郷小 **鈴木有里子**

話す・聞く力を育てる国語科の指導

### 技術・家庭



豊田・崇化館中 **白神 園恵**

持続可能な社会の構築に向けて、和の文化を通してよりよい社会を創造する生徒の育成

### 数 学



田原・田原中 **川崎 啓太**

協働的な学習を通して、自分の考えを表現し、考えを広げたり、深めたりすることができる生徒の育成

### 保健体育



豊田・浄水小 **山東 篤史**

一人一人の生徒が「できる」「わかる」を実感できる保健体育授業を目指して

### 理 科



幸田・幸田小 **新鶴田道也**

互いの考えの良さを認め合い、協働的に学ぶ子どもの育成

### 外国語活動



豊田・前山小 **小林 郁美**

人との関わりを楽しみ、世界に目を向け「外国語がわかるようになりたい」と思う子の育成

### 理 科



刈谷・富士松中 **本谷 藍**

目の前の事象を科学的に追究し、他者との関わり合いの中で考えを深める生徒の育成

### 総合的な学習



岡崎・矢作南小 **兼子しずか**

自ら動き出す子どもを育てる総合的な学習の時間

### 図画工作



安城・今池小 **齋藤みゆき**

一人一人のよさを認め合い、表現の喜びを味わう子の育成

### 総合的な学習



幸田・幸田中 **天野 諒祐**

地域への思いを強くもち、自分たちのできることを見つけて動き出す子どもの育成



## 令和元年度 団体研究助成

今年度は、審査委員会において次の5団体にそれぞれ助成が決定されました。

- ・三河小中学校長会
- ・三河教育研究会
- ・三河教頭会
- ・愛知県へき地教育研究協議会
- ・生活・障害児教育研究協議会

本誌では今回、へき地教育研究協議会の活動の特集しました。



## コンクール関係

みかわ彩発見絵画コンクール（秋・冬の部）

応募期間 令和元年12月20日(金)～令和2年1月10日(金)

かきぞめコンクール

応募期間 令和2年1月6日(月)～1月10日(金)

作品展（絵画・かきぞめ同時開催）

展示場所 三河教育会館

展示日時 令和2年1月31日(金)・2月1日(土)

午前9時30分～午後3時30分

優秀作品表彰式／令和2年2月2日(日)



## 使用報告・刊行物注文締切

◇使用報告／冬休み日誌、かきぞめ手本、硬筆用紙、賞状  
令和元年12月5日(木)～10日(火)

◇令和2年度版刊行物第1期当初注文締切／  
令和2年1月9日(木)～16日(木)

□刊行物モニター研究調査報告締切／令和元年11月29日(金)

□教育図書出版助成申請締切／令和元年12月6日(金)

□都市教育・研究、学校教育ボランティア助成等実施報告締切／  
令和2年2月27日(木)

### 【小学校版】新規刊行物

# 英語の学習

「聞く」「書く」を中心とした、評価の手助けとなる単元まとめのテストとしてご活用ください。

●リスニング音声CD付き

●紙面にQRコード掲載  
簡単にリスニング問題を再生でき、家庭での復習などに有効です。

●観点別の評価に役立つ

新しい評価の観点「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を掲載



Unit 5 My Summer Vacation

Grade \_\_\_\_\_ Class \_\_\_\_\_ No. \_\_\_\_\_  
Name \_\_\_\_\_

点 / 50

Writing (書いてみよう)

1) 次の絵が表す英語を選び、線で結びましょう。(5点×4)

swimming    hiking    fishing    shopping

2) 女の子が夏休みの思い出を書いています。①～③にあてはまるものを下の4欄に書き、絵に合う思い出を表す英文を完成させましょう。(5点×3)

Hi, class.  
This summer, I went to the ① river.  
I enjoyed ② swimming.  
I ate ③ watermelon.

Thank you.  
① mountain./river    ② fishing./swimming    ③ watermelon./ice cream

内容 【思考力、判断力、表現力】 (3) 言語活動及び言語の働きに関する事項(イ) 書くこと (3)

3) ①と②の【 】から当てはまるものをそれぞれ1つずつ選び、文を作りましょう。(5点×3)

① [ I went to / ate ]    ② [ swimming / the countryside ]

I went to the countryside.

4) ① [ saw / ate ]    ② [ watermelon / the countryside ]

I ate watermelon.

5) ① [ enjoyed ]    ② [ the mountain / swimming ]

I enjoyed swimming.

6) ① [ I went to / ate ]    ② [ watermelon / the mountain ]

I went to the mountain.

2) 内容 【思考力、判断力、表現力】 (3) 言語活動及び言語の働きに関する事項(イ) 書くこと (3)

We Can! 2 6年

Listening (聞いてみよう)

点 / 50

1) 聞こえた英語が表す絵を選び、ア～オの記号を書きましよう。(5点×5)

ア イ ウ エ オ

2) どんなことをしたのかを聞いて、線で結びましよう。(5点×3)

fun    exciting    cool    delicious

3) 人が夏休みにしたことを表す絵をア～エから、1つずつ

いちろう    ア

内容 【思考力、判断力、表現力】 (3) 言語活動及び言語の働きに関する事項(イ) 聞くこと (3)



試聴できます!

